

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 神戸大学

ビジョン：先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学

：将来世界ランキング100位以内を目指すための体制強化

将来目標：超スマート社会実現のエンジンとなる世界トップレベルのフラッグシップ国際研究拠点の形成

これまでの実績・取組状況

強化した体制を開花

今後5年間の将来構想：①～⑦のシステム強化

指標の実績

強：8指標中6指標の数値が上昇、特に科研費採択数が顕著に増加
弱：課題として若手研究者、国際共著論文数のさらなる向上が必要

研究体制の強化

先端研究と文理融合研究の創出体制強化

- ・先端融合研究環の設置
- ・強みの研究領域の体制強化
- ・基幹研究推進組織の整備

研究基盤の強化

若手研究者育成制度の強化

- ・神戸大学テニュアトラックの制度設計と運用
- ・若手教員長期海外派遣制度の継続的实施

科研費、戦略的創造研究推進事業の採択強化

- ・全学的な戦略的外部資金獲得体制の強化

研究機器の共同利用化促進

- ・研究設備サポート推進室の整備

イノベーション創出体制の強化

イノベーション人材育成強化とベンチャー創出強化

- ・科学技術イノベーション研究科の設置
- ・(株)科学技術アントレプレナーシップの設置
- ・数理・データサイエンスセンターの設置準備

研究マネジメント体制の強化

PDCA体制の強化(司令塔機能の強化)

- ・研究戦略企画室、戦略情報室の設置

学術から社会実装までのマネジメント体制強化

- ・「学術・産業イノベーション創造本部」の設置
- ・高度専門職制度の開始

★特徴ある実績

計算社会科学等の新しい文理融合研究領域の創出

若手研究(A)

さきがけ

採択数の増加

科研費大型種目

基盤研究(S、A)

採択数の増加

大型競争的資金獲得

民間企業からの外部

資金獲得の増加

戦略的推進体制整備

URA組織の基盤構築

◆成果目標、成果指標

成果目標：世界トップレベルのフラッグシップ国際研究拠点3拠点
機器プラットフォーム、資料プラットフォームの構築

成果指標：Top10%論文1,100報、国際共著論文3,500報
承継内若手教員比率22.2%、大型科研費45件
イノベーション創出、文理融合研究等の成果20件
URA21名体制(3倍増)、外部資金130億円

◆世界を牽引する国際研究拠点群の形成

- ①フラッグシップ国際研究拠点群(仮称)形成のシステム構築
 - ・体制構築と研究に専念し飛躍できる研究特区の設置
- ②次世代の研究拠点を育成するシステム構築
 - ・次期国際研究拠点育成と課題対応型文理融合研究育成
- ③次世代の研究者を集積、育成するシステム構築
 - ・テニュアトラック活用による次世代リーダーの育成と集積

◆「知の集積」を加速する研究基盤体制の強化

- ④基盤的研究力の強化システム構築
 - ・外部研究資金増加による基礎研究の更なる強化
- ⑤研究基盤インフラの強化システムの構築
 - ・機器の共同利用システムの有効活用と人材育成システム構築
 - ・デジタル歴史資料のデータサイエンスへの活用

◆価値を協創するイノベーション輩出、マネジメントの強化

- ⑥イノベーション強化のシステム構築
 - ・価値創出システムを連動させた戦略的な包括連携の強化
- ⑦研究戦略のPDCAサイクルを強化するマネジメントの仕組を強化
 - ・「学術・産業イノベーション創造本部」による①～⑥のシステム構築、推進の体制強化

中間評価結果

評点区分：A

全体に対する所見

文理融合研究領域の創出も進んでおり、人文社会科学系を生かし、ユニークな観点から「世界的なフラッグシップ国際研究拠点形成」を今後の目標とし、これらを軸としたシステム改革による進展に期待が持てる。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

研究活動の分析によって、強みとした部分へは成果が現れており、弱みとする部分についても分析に基づく対応がなされているなど、制度面の整備が進んでいる。ポイント制の活用による人事システムも構築されている。

今後5年間の将来構想に対する所見

URAに求める役割を設計し、文理間のバランスを考慮した必要な人数のURAと財源の検討がなされており、研究力強化や社会、他機関との連携による機能強化も適切に計画されている。文理融合研究の研究力強化について、指標を明確にすることが望まれる。